

第21期（平成元年度）広報委員会委員

委員長	内藤陽哉	(総・教授)
副委員長	安田峯生	(医・教授)
委員	水島裕雅	(総・教授)
〃	米谷巖	(文・教授)
〃	清水凡生	(教・教授)
〃	岡野説子	(福・助教授)
〃	佐々木峻	(学・教授)
〃	江頭大藏	(法・助教授)
〃	香川敏幸	(経・教授)
〃	前田文之	(理・教授)
〃	二階宏昌	(歯・教授)
〃	迫原修治	(工・助手)
〃	川上英之	(生・助教授)
〃	田邊誠	(法・助教授)
〃	山口清	(学・教授)
〃	大林正昭	(教・助教授)

編集後記

新学期を迎え、広報委員会も第1回の委員会を開催し、新メンバーの初顔合わせを済ませました。これから新メンバーの活動が始まります。

5月20日、4年間学長の重責を全うされた沖原学長が退かれ、21日新学長に田中先生が就任される。今回のご退任の一因に、例の「総合科学部長刺殺事件」に対する責任を自ら挙げておられた。先生ご自身にとっても、広島大学にとっても、大学史上特筆に値する痛恨の事件であることは誰しも認めざるを得ないところであろう。

事件の判決公判も5月12日に開かれる。判決が下されることによって、法律的には最初の決着を見るわけであるが、この事件が大学人に投げかけた問いかけには、われわれはまだ何も答えていないのが現状ではなかろうか。重く、苦しい問いかけであるだけに、一朝一夕に解答のでることではない。しかし、一般に言われているように助手制度に欠陥があるなら、改めねばならない。その助手制度も学部によって多様であり、同一に論じることはできない。

今、というより今もお日本の大学は多くの問題を抱えている。助手制度もその一つであろう。広島大学も通称「21世紀委員会」が2年近くにわたり、広島大学の将来構想について議論をかさねられた結果、このたび答申をまとめられ、報告書が提出された。「広大フォーラム」も何らかの形でこの答申を受け止めていきたい。

今号から新シリーズ「開かれた学問」と「留学生の眼」が始まった。

第一号でも積極的な投稿をお願いしたが、投稿欄を「フォーラム」と名づけ育てていきたいと願っている。気楽にご投稿いただきたい。

(第21期広報委員会委員長 内藤陽哉)